2014 年(平成 26 年)4 月 9 日

相 愛 高 等 学 校

校長　安井　大悟

始業式式辞

釈尊の言葉を現代に生きる私たちが聞こうとすればどういう方法があるでしょう？

そうですね。「経典を読む」が答えにあたるでしょう。ところが漢訳されたものがほとんどで、相愛の建学の精神『當相敬愛』が載っている『仏教無量寿経』は膨大な量の文章で、読めても意味が解りません。仏教伝道協会という財団法人が東京にあり『仏教聖典』を発行しておられます。今春、相愛の中学・高校新入生にプレゼントしていただきました。

仏教伝道協会という財団法人のことは機会を改めてお話したいと思いますが、世界中のホテルの部屋や病室に『仏教聖典』を届けようという運動、加えて世界 40 ヶ国の言語に釈尊の言葉を翻訳される運動をなさっている団体です。

さて、この『仏教聖典』の中から、今日の始業式の式辞

に私は次の言葉を選びましたのでお話しましょう。「今日すべきこと」です。こうあります。引用します。

『まだ来ない未来にあこがれてとり越し苦労をしたり、過ぎ去った日の影を追って悔いていれば、刈り取られた葦のようにやせしぼむ。過ぎ去った日のことは悔いず、まだ来ない未来にはあこがれず、とり越し苦労をせず、過去を追ってはならない。ただ現在の一瞬だけを強く生きねばならない。今日すべきことを明日に延ばさず確かにしていくことこそ、よい一日を生きる道である』です。これは仏教的立場に立つ生き方、ものの考え方を如実にあらわした言葉です。もちろん釈尊の言葉です。教えです。

私たち相愛生が毎日読誦している「日々の糧」１３日朝には次のような言葉がありました。

『私は、人生の旅路において、「今日」というこの道を再び通ることはない。二度と通らぬ「今日」というこの道。どうしてウカウカ通ってなろう。どうして無意義に通ってなろう。二度と通れぬ「今日」というこの道』です。道にたとえてとてもわかりやすい表現になっていますね。

私たちが何より大事にすべきは“今”という瞬間なのです。その積み重ねが今日の１日であります。『諸行無常』という言葉について以前にお話しましたね。時の経過は刻々とすべてのものを変化させます。どれ１つとしてそのままであり続けることはできないという心理を表現しています。私がお預かりしている「いのち」も有限ですよ。若さには「明日がある」「明日こそは」・・・・と希望や夢、成りたい自分を想像できるという特権もありますから、つい勘ちがいして、しなければならないことまで先送りしがちですよね。今をどう生きるか、人として一瞬一瞬を悔いのない生きざまで輝かせるプロセスにこそ意味があり、今をこよなく大切にする生き方を問うのが仏教なのですよ。

新入生の皆さんには７日の月曜、本山参拝の折、阿弥陀堂の御堂法話に紹介したことですが、在校生も揃ったこの始業式にもう一度お話します。

親鸞聖人お得度の時の歌です。
９歳の春、粟田口の青蓮院にて慈円和尚によりお得度を受けられましたが、夜も更けてお着きになりましたので、寺の者はお式を明日にしましょうとお勧めになられたのに対

し詠まれた句、
『明日ありと思う心のあだ桜、夜半に嵐の吹かぬものかは』
（明日があると思う心があだになることがあります。今日満開の桜の花も、今夜嵐が吹いたら散ってしまうかもしれないからです。）
今日、今というこの一瞬を大切にしましょうという姿勢が見事に表現されていますね。

　みなさん、今日の始業式からスタートする新学年、新学期、今日すべきことを今日のうちに確かなものにする。を心掛けましょう！約束してください。

　これをもって始業式の式辞とします。